

視線アノテーションマニュアル

初版: 2011年3月9日

作成者: 菊地浩平

以下では視線へのアノテーション作業をするにあたって使用するタグについて説明する。

視線アノテーションは以下の図のように2つのタグ(移行区間と安定区間)の連続したラベル付与によって行う。



図 1: 視線アノテーションの概念図

1. タグの一覧

* 移行区間 (移動タグ)

t (transition 移行区間): 視線が、特定の対象に対して安定して向けられている状態から動き始め、次の対象に向けられるまでの区間に付与するタグ。

follow (追従): 身体の動きに伴って視線が動いている場合に付与するタグ。たとえば笑いながら仰け反るといった身体の動きに伴って視線が上に向くような場合。

* 安定区間 (対象タグ)

Pn (Participants n 参加者 n): 一緒に会話が行われている場にいる他の参加者への視線に付与するタグ。n は任意の数字。

camera (カメラ): 撮影用のカメラに対する視線に付与するタグ。

Obj (object, オブジェクト): データ収録会場に設置されている、上記参加者とカメラ以外の対象物に対する視線に付与するタグ。

null-front, null-up, null-down, null-right, null-left, null-right-up, null-right-down, null-left-up,

null-left-down: (方向): それぞれ特定の対象を見ているわけではなく、視線のみが該当の方向に向けられている場合に付与するタグ。(e.g. 右方向に参加者 P1 がいるが、参加者 P1 に視線を向けているわけではない場合など)

* その他

misc. (その他): 上記の一覧に当てはまらないもの、判断に迷うものに付与するタグ。以下 3

で触れる comment 注釈層と併用するのが望ましい。

2. タグを付与する際の基準について

視線がどこに向けられているのかを判定する際の基準を重要度順に以下に示す。

黒目の向き: 映像資料から黒目の向きが確認可能な場合は、これを基準として視線の向きを判定する。

顔の向き: 映像資料から黒目の向きが確定できない場合は、顔の向きと合わせて視線の向きを判定する。

3. どうしても判断に迷う場合

データ映像の精細度や画角の制限といった要素があるため、すべての視線について移行・安定が、常に確定できるとは限らない。その場合は comment 注釈層を用いて、misc.タグを付与した理由を注記しておく。